

「ちょっといいですか」。入社1年目の新人なら、この言葉をちゅうちよせずに発した方がいい。新人の特権だ。困ったときには職場の先輩、上司をつかまえて話しかけよう。

Smart Times

優秀と言われてきた人は、根拠のない自信から自分流で進めてしまう。あるいは、こんなことを聞いたら自分の評価が下がるかもしれない、と案じて膨大な時間をかけたり、自分で抱え込んでしまったりする。

インディゴブルー会長

柴田 励司



1985年上智大学卒業、マーサージャパン社長、カルチャ・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者(COO)などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年から会長。

の経験者に聞くのが一番(サイト)で済ませることが多い。彼らに「直接聞いて」ですか」と声をかけたからというのはややハードルが高い。職場によっては年齢差が大きい。新人からすると先輩や上司はみんな自分の親世代、ということもある。この世代差は「聞けない」に拍車をかけた。

自分流で進めてアウトプットしても、それが自分流である限り、周囲が期待するものにならない。そう指す。世の中の一般的なことはネットで見れば、根拠のない自信で検索できても、自分家には「こう思ったからこうの会社の実態、目の前の仕事にもならない」という環境

聞くのは恥だが役に立つ

肌説いたほうがいい。まずはこのコラムを部下に配

「やった」と自分の作業を正事のことにはネットでは検索で育ってきた。その世代からすると「聞くのは恥」と思っている。その上で、常に静かなたずまいであることを見識し、新人に声をかけられたら笑顔で返事をする。

「そんなこともわからないのか」と思われるのが怖い。昔から「聞くは一生の恥」は、ちょっとしたコミュニケーションは、ちょっとした現場ケーションはSNS(交流)を減らす。

「そんなこともわからないのか」と思われるのが怖い。昔から「聞くは一生の恥」は、ちょっとしたコミュニケーションは、ちょっとした現場ケーションはSNS(交流)を減らす。